

住宅の平面構成に関する研究

その1 各地における建売戸建住宅の平面構成について
ノートルダム清心女大 家政(非) 上田恭嗣

【目的】住宅の平面構成は、家族関係の在り方や、子供の成長・発達に大きな影響を与える要因の一つであると考えられている。この報告は、各地で供給されている建売住宅の平面構成が、地域によってどのように異なり、特性があるのか、比較・検討することを、主な目的としている。また、広告の形態・売込み文句の違いについても比較を行った。

【方法】1992年12月から1993年6月までの期間に、横浜市(13社72棟)・岐阜市(31社103棟)・奈良市(17社101棟)・岡山市(20社89棟)・松山市(23社114棟)の各市内で配布された新聞折込み広告(新築の戸建住宅に限定・プレハブ住宅は除く)の内容を資料として、階段の位置・個室化傾向・床の間の有無等、平面構成の特徴について調査した。

【結果】住宅規模としては、479棟中470棟は二階建であった。延床面積では100㎡以下の規模が横浜97.2%・松山65.8%と高く岐阜20.4%・岡山24.7%との格差がみられた。また、販売価格では4000万円以下は横浜5.6%・奈良34.7%であるが、他地域では90%以上が該当し、取得条件の違いが大きい。階段の位置に注目すると、玄関ホールに位置するものが各地とも75%以上みられ、居間を経由する事例は、横浜・奈良に各1例みられるだけであった。二階の個室化傾向では、続き間タイプが岐阜で過半数を越え、他地域との違いを示した。床の間については、松山・岐阜・岡山で95%以上設けられているが、横浜は23.6%と少ない。仏壇入れの設置については、岐阜で70%近く見られ、他との違いが著しい。

広告については、地域によって掲示形態・表現方法に違いが見られ、謳い文句も地域による格差が見られた。都市圏と地方圏との住宅供給に関する意識の違いが読み取れる。